

ことばの

暴力

～ 心を傷つけたひと言 ～

ことばは刃物と同じで

簡単に人を傷つけてしまう

それも、気づかないうちに・・・

文部科学省選定作品

Blu-ray 80,000 円(税別)

DVD 60,000 円(税別)

上映時間 約 20 分
スタンダード版・字幕版収録

制作意図

私たちにとって当たり前の存在である言葉。

その言葉の大切さと、使い方次第でことばが人を傷つける刃物のようにになってしまうことを、少女美羽と美羽の家族、美羽の友達との何気ない日常をとおして理解してもらい、言葉の力、使い方をもう一度考えてもらうきっかけになることを目的に制作されました。

作品の内容

美羽は自分の部屋で、友達由佳の誕生日プレゼントに、手作りのバースデーカードを作っていた。

そのころ、ダイニングにいた美羽の父憲一、美羽の母聡子、美羽の兄達哉は、美羽の祖父茂が腰を痛めたという連絡をうける。

美羽は、友達の恵と理子と学校から帰りながら、由佳の誕生日プレゼントを何にするかを話し合う。美羽は、由佳に手作りのバースデーカードを誕生日プレゼントにすることを、恵と理子に話す。亡くなった祖母が生きていたころに、手作りのバースデーカードを渡して、とても喜んでくれたのだ。

美羽が家に帰ると、美羽の部屋を腰を痛めた祖父に譲るように母から告げられる。美羽は家にきた祖父に冷たい態度をとってしまう。

翌朝、美羽は腰をかばいながらゆっくりと行動する祖父に、我慢できず「邪魔、学校に遅れる。」と言ってしまふ。

そのイライラは学校に行っても収まらない。ドッジボールをするときに、美羽は由佳に「にぶくて、すぐ当たっちゃうから審判になれば」と言ってしまう。そんな由佳は、美羽がテストで45点をとったことがわかると、美羽に「45点のくせにえらそうだね」と言って馬鹿にする。

この由佳の言葉が、刃物のような存在になり、美羽の心を傷つけ、美羽はひどく落ち込んでしまふ。

下校後、公園で恵と理子は、由佳にドッジボールの仕返しをされたことを美羽に教える。美羽は自分も『言葉の刃物』を使って由佳を傷つけていたことに気づく。

家に帰りついた美羽は、自分が祖父にもひどいことをしたことを後悔する。

家にいた祖父に、美羽は自分がしたことを深く反省し謝る。祖父は、亡くなった美羽の祖母から『きれいな言葉、美しい言葉の大切さ』を教わったことを美羽に話す。美羽も、バースデーカードを渡したときに言葉が美しいと言っていた祖母を思い出すのだった。

美羽は由佳に自分がしたこと謝り、バースデーカードを渡し由佳と仲直りする。

文部科学省選定

分類	対象	教科等
学校教育教材	小学校高学年児童向き	道徳

(株)オプチカル 販売課 教育映像係

香川県高松市屋島西町2484-8

TEL 087-841-1100

FAX 087-841-1101